

第1回清須市地域包括支援センター運営協議会における委員からの意見

後藤会長（民生委員）

○清洲地区を担当しており、包括支援センターが近くにあることで、相談が容易に出来、ケアマネジャーの顔も大体承知している。一方、西枇杷島地区のように距離的に遠いところを担当している民生委員からしてみると、職員との連携がスムーズではないこともあり得、相談がしづらいということもあるのではないか。もう1か所近くに設置し、高齢支援が迅速に行える体制を構築していくことも必要ではないか。

島野副会長（医師会代表）

○高齢者の増加に伴い、独居高齢者の絶対数も増加していく。情報弱者となり得るそうした方に対して、アウトリーチの支援していくことも大事ではないか。包括支援センターの複数配置については、考慮すべき点が多々あるが、実際にやってみなければ効果があるかどうかかわからないという側面もあるが、日常生活圏域のより近いところに窓口を設置することは意義があると感じている。まずは、慎重を期す意味でも、一つずつ増やしていくという形で進めていってはどうか。

高橋委員（民生委員）

○包括支援センターの複数配置について、日常生活圏域と同数のセンターを設置した方が良いのか。また、現場の意見はどうか。

包括支援センター（事務局）

○運営において、現状大きな不具合は出ていないと考えている。一方、高齢者の増加に伴い、相談件数も増加している。高齢者本人が直接窓口相談に来ることは少なく、窓口の距離はあまり関係がないのではないかと想定されるが、近年複合的な課題を抱えた困難ケースも増加しており、情報が入った時には深刻な状況となってしまっている場合もある。包括支援センターの複数配置は、介護保険料にも影響するため、一概にたくさんあれば良いというものではないと思われるが、より身近なところにもう1か所くらい窓口があると、地域からの情報が入りやすく、早い段階での支援が期待出来る。